

早期景気観測調査

【2-3月期 調査結果概要報告書】

平成25年4月



甲府商工会議所

◆調査要領

1. 調査の目的： 山梨県内で最も速報性の高い『街角の景況感』を把握する調査として中小企業の明日の経営活動に資する。
2. 調査実施機関： 甲府商工会議所
3. 調査実施時期： 平成25年3月15日(金)～31日(日)
4. 調査対象： 当所会員 164事業所
5. 調査方法： ファクシミリによるアンケート方式
6. 有効回答数： 122（付帯調査回答数：84）
7. 有効回答率： 74.4%
8. 特記事項： 原則、小数点以下第二位で四捨五入

◆結果概要

【2－3月期の動き】

業況の改善進むも、収益環境は依然厳しい

2－3月期の全業種総合の業況DIは▲28.7と、前期から7.7ポイント改善し、2期連続での業況改善となった。売上の増加がみられたが、それに対して仕入単価の大幅な上昇が目立ったため、採算は相変わらずの悪化傾向にある。加えて、従業員には過剰感が出ており、金融機関の貸し出し姿勢は厳しい。このところの円安傾向に伴い、輸入原材料費、石油関連の値上がり、加えて電気料金の値上がりが企業の採算を圧迫しており、売上は伸びるも、収益環境は依然厳しい。

業種別では、建設業を除くすべての業種で業況が改善した。製造業では、2期連続の業況改善となり、業績が上向きな事業所もみられるが、各種物価上昇によるコストの増大を危惧する声も多い。前期において業況改善がみられた建設業は、受注額・受注量が少ないうえ、原材料費の高騰により再び悪化に転じた。また、卸売業については3期ぶりに改善したものの、引き続き売上は悪化傾向にある。小売業は、3期連続の業況改善となり、売上が大きく増加している。一方、サービス業は、5期ぶりに改善となったが、人の動きや消費意欲の減少が目立つ。

先行きに関しては、先行き業況DIが▲21.3（今期比＋7.4ポイント）となっており、大幅に改善する見通しである。しかしながら、安倍政権によるデフレ対策も中小企業にとってはコスト増大の意味合いの方が大きく、懸念材料とする事業所も多くみられた。

【付帯調査(各種物価上昇に伴う貴社の販売価格への転嫁状況について)】

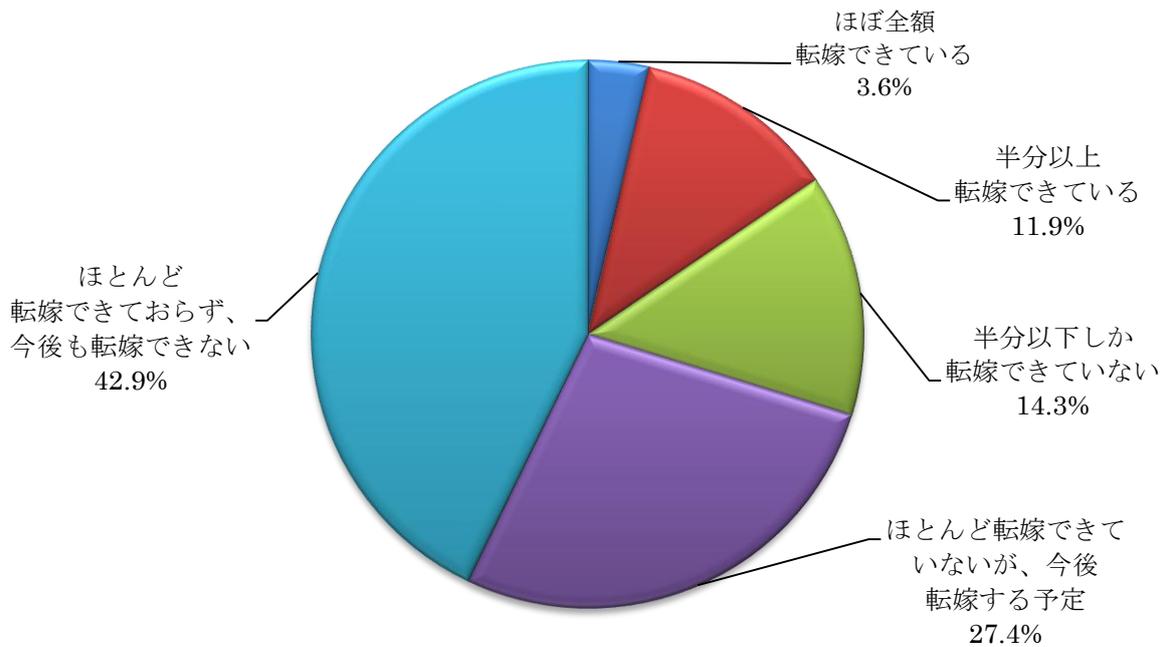
「ほとんど転嫁できていない」7割超

付帯調査として、「各種物価上昇に伴う貴社の販売価格への転嫁状況について」択一回答で尋ねたところ、「ほとんど転嫁できていないが、今後転嫁する予定」「ほとんど転嫁できておらず、今後も転嫁できない」と回答した事業所を合わせると70.3%（59事業所）に上った。一方「ほぼ全額転嫁できている」と回答した事業所は、わずか3.6%（3事業所）にとどまった。以上のことから、多くの事業所が物価上昇への対応が十分に出来ていないことが伺える。

業況D I の推移



各種物価上昇に伴う販売価格の転嫁状況について

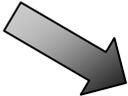


◆全業種・業種別詳細

※ D I 値 (景況判断指数) について

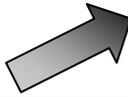
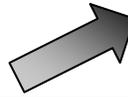
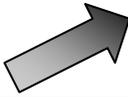
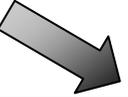
D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

◆指標の見方

前回D I に比べて (先行は今回実績値に比べて)		
改善	不変	悪化
		
D I 値	D I 値	D I 値

※仕入単価D I は、仕入単価が下落した場合、「↗」 (改善) と表示しております。
 従業員D I は、従業員が不足している場合、「↗」 (改善) と表示しております。

◆全業種総合

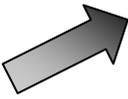
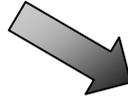
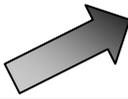
業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲28.7	▲21.3	▲25.4	▲39.3	▲45.1	▲0.8	▲6.6

2-3月期の全業種総合の業況D I は、**▲28.7** (前期比+7.7ポイント) となり、2期連続での改善となった。売上D I は3期ぶりの改善となったが、採算D I は5期連続、仕入単価D I も4期連続で悪化している。さらに、従業員D I、金融貸出しD I も悪化に転じている。

先行きに関しては、改善に向かうと予測している。

◆ 業種別

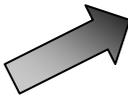
製造業

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 1 2 . 9	▲ 1 9 . 4	▲ 6 . 5	▲ 2 5 . 8	▲ 5 8 . 1	▲ 3 . 2	▲ 9 . 7

業況D Iは2期連続の改善となった。また、売上D Iも改善に転じたが、採算・仕入単価・従業員・金融貸出しD Iは、全て不変から悪化へと転じた。とりわけ、仕入単価D Iの悪化が著しい。

業況D Iに関する今後の見通しについては、悪化を予測している。

建設業

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 4 5 . 5	▲ 3 1 . 8	▲ 3 1 . 8	▲ 5 9 . 1	▲ 6 3 . 6	4 . 5	▲ 4 . 5

業況D Iは、悪化に転じた。売上D Iは2期連続での改善となったが、採算D Iは大幅な悪化となった。さらに、仕入単価D Iも大幅に悪化しており、5期連続で悪化している。加えて、従業員・金融貸出しD Iも悪化に転じた。

業況D Iに関する今後の見通しについては、大幅な改善を予測している。

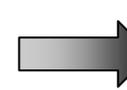
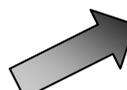
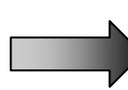
卸売業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 2 6 . 3	▲ 2 1 . 1	▲ 4 2 . 1	▲ 4 2 . 1	▲ 1 0 . 5	▲ 4 2 . 1	0 . 0

業況D I は、3期ぶりの改善となった。しかしながら、売上D I が6期連続、採算D I も2期連続で悪化している。一方、仕入単価D I は4期ぶりに大幅な改善に転じた。また、これまで小幅な変動が続いていた従業員D I が、大幅にマイナス（過剰）となった。また、金融貸出しD I は不変であった。

業況D I に関する今後の見通しについては、改善を予測している。

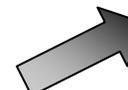
小売業

業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 2 5 . 0	▲ 2 5 . 0	▲ 2 5 . 0	▲ 3 1 . 3	▲ 1 5 . 6	3 . 1	▲ 6 . 3

業況D I は3期連続の改善となった。売上D I も大幅な改善に転じ、採算D I も2期連続の改善となった。しかしながら、仕入単価D I はマイナス水準のまま前期と変わらず、従業員・金融貸出しD I については悪化へと転じた。

業況D I に関する今後の見通しについては、不変を予測している。

サービス業

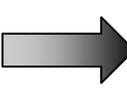
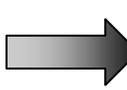
業況	業況 (先行)	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						
▲ 4 4 . 4	▲ 5 . 6	▲ 3 3 . 3	▲ 5 0 . 0	▲ 5 5 . 6	0 . 0	▲ 1 1 . 1

業況D I は、小幅ながら5期ぶりの改善となった。売上D I も5期ぶりの改善となり、採算D I も改善に転じている。一方で、仕入単価D I は4期連続で悪化しており、従業員D I は不変であった。また、金融貸出しD I は大幅に悪化している。

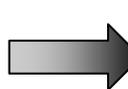
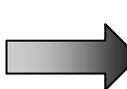
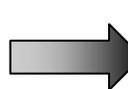
業況D I に関する今後の見通しについては、大幅な改善を予測している。

◆ 業種別詳細

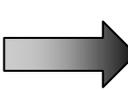
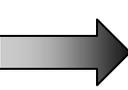
製造業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

製造業（家具）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

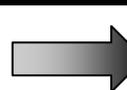
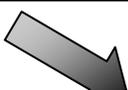
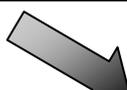
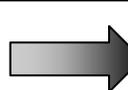
製造業（工業製品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

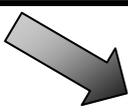
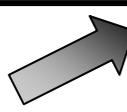
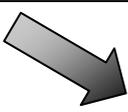
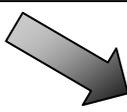
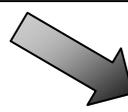
製造業（宝飾）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

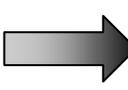
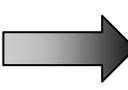
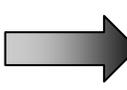
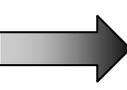
製造業（繊維）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

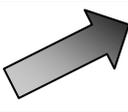
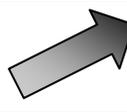
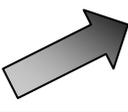
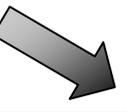
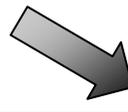
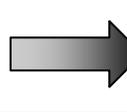
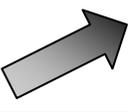
建設業（建築）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

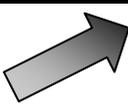
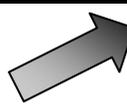
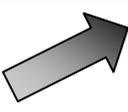
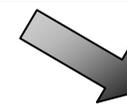
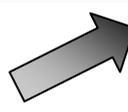
建設業（土木）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

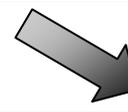
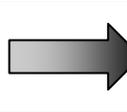
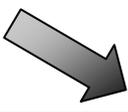
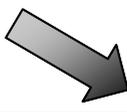
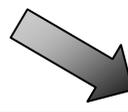
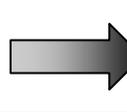
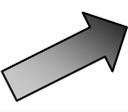
建設業（鉄鋼）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

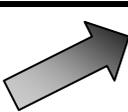
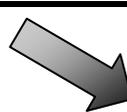
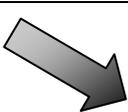
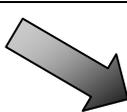
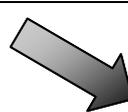
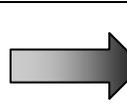
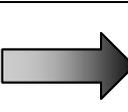
卸売業（食品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

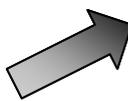
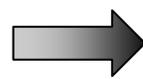
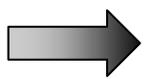
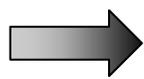
卸売業（繊維）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

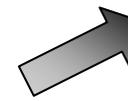
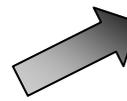
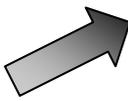
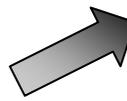
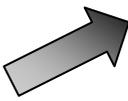
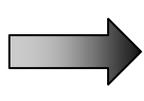
卸売業（その他）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

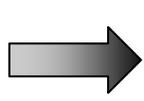
小売業（大型店）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

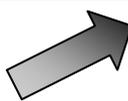
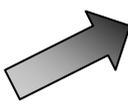
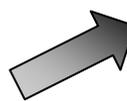
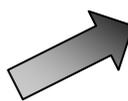
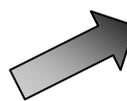
小売業（食料品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

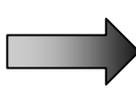
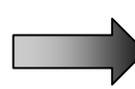
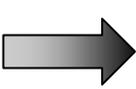
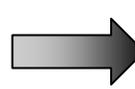
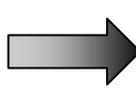
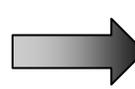
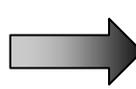
小売業（事務用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

小売業（趣味・日用品）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

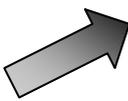
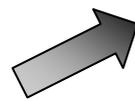
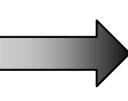
小売業（家電）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

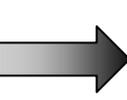
サービス（ホテル・旅館）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（観光）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

サービス業（飲食その他）

業況	業況（先行）	売上	採算	仕入単価	従業員	金融貸出し
						

➤ 中小企業の声（現状や直面してる課題）

製造業（食品）

- 石油関連の値上がり、小麦粉の大幅な値上がりも商品価格に転嫁できない。
- 親会社からの注文量が増加傾向にあり、業績は好調です。
- 輸入原料中心のため厳しい。アジア向け輸出を考えている。
- 原油高、円安により原材料費の高騰が著しい。更なる改善活動にて収益改善を図らなければならない。
- 甲州ワインを中心に売り上げは増加傾向。
- 若干、上向の傾向がある。

製造業（家具）

- アベノミクスは気分的なもので、今後の見通しはつかない。中小企業にとっては諸物価インフレ気味でコストが上がり、むしろ景気は悪くなるかもしれない。

製造業（工業製品）

- 受注量が減少する中、電気代の値上がり、原材料費の値上がりと業績に対して厳しい。
- 水晶デバイス業界各社は、国内電機メーカーの業績不振や海外二大スマートフォンメーカーへの対応、競争の激化による販売価格の下落などに苦慮している。
- 製造業全般に、まだ上昇する気配はない状況。県内大手からの受注は減るほうが大。県外に目を向けているお客様は活気があります。半年は更に厳しい状況が続くと思います。

卸売業（食品）

- 1月の単価高の影響で野菜離れが進み、販売量、販売単価の減少に歯止めがきかない。

卸売業（その他）

- 5月以降、本格的に製品値上げ実施が始まり、転嫁は厳しい状況です。

小売業（大型店）

- 新年度3月より出店を加速。峡南エリア、南部・中富に出店、長野県安曇野に出店。自社競合がない店舗の為、売り上げ増につながる。

小売業（趣味・日用品）

- ・ 閉店する予定の店舗はいくつかあるがその代わりに新規出店する店はなく、ますます空洞化が進む。
- ・ 業界、また我が店においても子供たちに跡を継がせることが難しい。
- ・ 花粉症の影響で好調になってきました。1～2月は意外と風邪が不調でした。（インフルエンザ流行の為）

小売業（家電）

- ・ 電材が値上げ傾向にある。

サービス業（ホテル）

- ・ 宴会場リニューアル実施。向こう3ヵ月の売り上げ減はリニューアル工事に伴う販売機会逸失の為。
- ・ この所の市内の大きな建設で小旅館も県外からの建設関係者の長期宿泊で売り上げも増加に繋がりました。この後は観光に期待したいところです。大きな事業、国文祭などでは期待できない。

サービス業（観光）

- ・ 個人消費意欲が落ちているので、物価上昇に伴う価格転嫁はなかなかできません。

サービス業（飲食その他）

- ・ 3～4月は歓送迎会の時期で多少人の動向はうかがえるが、5月以降は未知数で読めない。
- ・ 中心部への客足がなく、人が出てこない。従業員の不足、アルバイトが長く続かない。
- ・ 高騰しているうなぎの仕入れ値ですが、人工的に生産できるようにならなければ、値段が下がることはないと思います。国内外の英知で日本の食文化を守って欲しいと願っています。

建設業（建築）

- ・ 相変わらず受注額が安く、少しでも油断やミスがあると挽回に相当の時間を要する。
- ・ 売上高が確保できない。（工事を含み）

建設業（土木）

- ・ 公共事業においては建設単価の問題よりも、設計数量が実施数量より少ない事例が多く深刻である。使用した材料、働いた労働者の賃金をカバーして欲しい。
- ・ 値上げの動きの方が、仕事が出てくるよりも早く先が思いやられる。

建設業（鉄鋼）

- 先行き不透明感は増す。
- 円安による原材料価格の上昇、東北3県の労務費高。

